絵本の部屋の歴史

絵本の部屋　初回の目録表紙（田島征三画）

『絵本の部屋のはじまり』

絵本は、出版社が作るもの。ところがお母さんやおばあちゃん達が子どものため、孫のために絵本を作ってプレゼントしている、と話題になりマスコミに取り上げられ、手づくり絵本が全国的に広がっていきました。そしてニュースをご覧になった絵本作家の田島征三さんから、東京展に出品するよう誘いの電話がありました。

東京展は、他の団体展と異なり、いろいろなジャンルの作品を展示して東京展独自のものにしたいと、第２回展に『絵本の部屋』が新設されました。武藤順子

東京展　第 2 回展　企画　絵本の部屋

会場　東京都美術館　会期　1976 年 9 月 21 日～ 10 月 8 日

絵本の出品者　128 名　出品グループ　12

絵本の部屋は、ワークショップをし、シルクスクリーンの T シャツ・版画・秋川のはりこ・お面・紙芝居（黄金バット）、そして手づくり絵本を展示、大変盛況でした。

隣の部屋に岡本太郎さんの絵のような桃の字の書があり、中村正義、中村哲、今東光、武見太郎、細川隆元、永六輔他（敬称略）、週刊紙が書のコーナーのとなりになぜか絵本があると書いていました。

第 3 回展

会場　東京都美術館　会期　1979 年 9 月 21 日～ 10 月 8 日

絵本の出品者　130 名　出品数 251（絵本原画 51　手づくり絵本 200）

絵本の部屋は有名な作家の作品だけでなく、お母さん方のグループ、幼児教育のグループ、実験的な作品が全国から出品される。

第 4 回展

会場　東京都美術館　会期　1978 年 9 月 27 日～ 10 月 12 日

絵本の出品者　199 名　出品数　251（絵本原画 57　手づくり絵本 194）

絵本の部屋は、童画の新しい流れとして国内外の注目をあびている。

特別陳列　安野光雅・藤城清治（影絵）

第 5 回展

会場　東京都美術館

会期　1979 年 9 月 27 日～ 10 月 12 日

絵本の出品者　155 名　出品数　272

（絵本原画・童画 12　手づくり絵本 151）

国際児童年・杉田豊氏の「児童年のポスター」が ボローニャで受賞、絵本の部屋に展示。

・武井武雄（童画家）の作品展示。 童画という言葉の発案者である。 本の概念を美術として高めた。大正後期からのユニークな作品の展示。

第 5 回　会場風景

第 6 回展

会場　東京都美術館　会期　1980 年 9 月 26 日～ 10 月 12 日

絵本出品者　149 名　出品数　227

特別企画

・イラストレーター 150 人の部屋

・漫画家結集の合作大壁画展　会場で壁面に絵を描いた。（横 8 メートルの作品）楽しい展覧会だった。

第 7 回展

会場　東京都美術館　会期　1981 年 9 月 20 日～ 10 月 6 日

絵本出品者　158 名　出品数 227（絵本原画　87 手づくり絵本　140）

絵本の原画と童画展示。（作家　富永秀夫・若山憲・佐野洋子・馬場のぼる・いもとようこ・丸木俊・西巻茅子他）
東京展賞　佐竹夕起子（絵本）

第 8 回展
会場　東京都美術館　会期　1982 年 9 月 21 日～ 10 月 6 日
絵本出品者　176 名　出品数　297（絵本原画　116　手づくり絵本　181）
東京展賞　渡辺武雄（絵本）　奨励賞　土倉泰子（絵本）
特別企画　・江戸小紋の世界　小宮康孝（人間国宝）　幕末・明治・現代の型紙 160 点展示

第 9 回展
会場　東京都美術館　会期　1983 年 9 月 21 日～ 10 月 6 日
絵本出品者　187 名　出品数　315（絵本原画・童画 128　手づくり絵本 187）
東京展賞　伊藤くみ子（絵本）　奨励賞　田名瀬咲子（絵本）
世界の古典絵本（武蔵野美大所蔵とほるぷ社復刻版）公開

第 10 回展
会場　東京都美術館　会期　1984 年 9 月 27 日～ 10 月 13 日
絵本出品者数　169 名　出品数　364（絵本原画・童画 130　手づくり絵本 234）
東京展賞　佐竹夕起子（絵本）　奨励賞　羽村絵本の会（羽村の歴史絵本）
特別企画：丸木位里・九木俊の世界「原爆の図」平和への懇願と死者への鎮魂の絵、高い芸術的表現で平和を訴え、
全世界 30 類ヶ国。一億人をこえる人々がこの絵を見たと云われる。

第 11 回展
会場　東京都美術館　会期　1985 年 9 月 27 日～ 10 月 13 日
絵本出品者　130 名　出品数　338（絵本原画・童画　208　手づくり絵本 130）
東京展賞　松本泰子（絵本）　奨励賞　館葉子
特別企画：世界の子どもの絵　50 点
特別企画：中村道雄の組木絵

第 12 回展
会場　東京都美術館　会期　1986 年 9 月 18 日～ 10 月 3 日
絵本出品者　182 名　出品数　278（絵本原画　86　手づくり絵本 192）
奨励賞　森下みどり　清水賢吉　長蔦幸子
童画の部屋を新設　30 号以上の作品展示　28
・加太こうじの部屋「黄金バット」作家講演講堂

第 13 回展
会場　東京都美術館　会期　1987 年 9 月 18 日～ 10 月 3 日
絵本出品者　164 名　出品数　255（絵本原画・童画　114　手づくり絵本 141）
東京展賞　土屋侑美　奨励賞　板橋敦子　隆矢加代子
特別企画
・日本の手まり　球形の美 日本古来の模様、さらに新しい図柄を表現することによって美しさとおもしろさが

ある。江戸時代の御殿まりは絹糸でかがり美しくかがやいていた。昭和の始めごろ綿が栽培され一般に普及した。木綿糸で手まりをかがった。

第 14 回展

会場　東京都美術館　会期　1988 年 9 月 18 日～ 10 月 3 日
絵本出品者　161 名　出品数 266（絵本原画・童画　134 手づくり絵本　132）
東京展賞　斉藤静枝
奨励賞　三浦直子　佐藤ゆかり

第 15 回展

会場　東京都美術館　会期　1989 年 9 月 19 日～ 10 月 3 日
絵本出品者　184 名　出品数　279（絵本原画・童画　113 手づくり絵本　166）
東京展賞　佐藤ゆかり　奨励賞　金沢順子
・高野玲子　絵本出版　第 14 回展に出品した「どんぐりと山猫」銅版画の絵本が偕成社より出版になった。
顕彰故展
・黒谷太郎 東京展絵本の部屋の創立から、御世話下さいました先生の作品展示。 童画家のグループを作り、絵本の仕事では日本画の素養を生かし、民話の絵本を描いた。

第 16 回展

会場　東京都美術館
会期　1990 年 9 月 19 日～ 10 月 3 日
絵本出品者　207 名　出品数 346
（絵本原画・童画　130 手づくり絵本　216）
東京展賞　尾崎曜子
奨励賞　小林弓子　原田光代
・斉藤静枝　絵本出版 第 15 回展に出品した「人形の見たもの」が出版になりました。お年寄りと問題をモチーフにした、幻想的な作品。

第 17 回展

会場　東京都美術館
会期　1991 年 9 月 19 日～ 10 月 3 日
絵本出品者　235 名　出品数　460
（絵本原画・童画　235 手づくり絵本　225）
企画顕彰故展：渡辺武雄　第 8 回展に絵本「もりのうれしい春まつり」 東京展賞受賞作家
絵本　人をたすけたおに　三吉と仙人
童画　切り紙　くじら　昔のくじら　ピエロ　銀河大音楽会　くじらのサーカス　もりのうれしい春まつり　他　小品　ロバさん　絶筆
合計 34 展示

渡辺武雄の作品

第 18 回展

会場　東京都美術館　会期　1992 年　9 月 18 日～ 10 月 3 日

絵本出品者　279 名　出品数　447 名（絵本原画・童画　126　手づくり絵本　271）

東京展賞　山田かかし

奨励賞　大塚靖子　武田真由美

企画・スズキコウジ原画展 「ガラスめだまときんのつのののやぎ」21 点

第 19 回展

会場　東京都美術館

会期　1993 年 9 月 18 日～ 10 月 3 日

絵本出品者　297 名　出品数　430

（絵本原画・童画　269 手づくり絵本 261）

東京展賞　武田真由美

奨励賞　三村久美子　南弘美

特別企画

・油野誠一　絵本古事記「神々の風景」78 点

第 20 回展　会場風景

第 20 回展

会場　東京都美術館

会期　1994 年 9 月 10 日～ 10 月 3 日

絵本出品者　309 名　出品数　332

（絵本原画・童画 52 手づくり絵本 280）

東京展賞　加賀美裕子

優秀賞　小谷野美恵子

特別企画・小松崎茂「私の絵について」

特別企画・油野誠一「まるで虹の部屋」

第 20 回展　会場風景

第 21 回展

会場　東京都美術館

会期　1995 年 9 月 19 日～ 10 月 3 日

絵本出品者　283 名　出品数　327

（絵本原画・童画　74 手づくり絵本　253）

優秀賞　藤井啓子　渡辺浩子

絵本の部屋に子どもコーナーを作り、子供の作品を展示。

第 21 回展　会場風景

第 22 回展

会場　東京都美術館

会期　1996 年 9 月 19 日～ 10 月 3 日

絵本出品者　243 名　出品数　268

（絵本原画・童画 91 手づくり絵本 177）

優秀賞　沖倉亜理佐

特別企画　・長谷川集平の世界　こどものいる「そこ」で

第 22 回展　会場風景　長谷川集平氏（中央）

第 23 回展
会場　東京都美術館
会期　1997 年 9 月 18 日～ 10 月 3 日
絵本出品者　244 名　出品数　293
（絵本原画・童画　54　手づくり絵本 239）
東京展賞　金沢順子
優秀賞　さいとうのりこ

第 24 回展
会場　東京都美術館
会期　1998 年 9 月 18 日～ 10 月 3 日
絵本出品者　217 名　出品数　232
（絵本原画・童画　41 手づくり絵本　191）
優秀賞　深沢葉子

第 25 回展
会場　東京都美術館　会期　1999 年 9 月 18 日～ 10 月 3 日
絵本出品者　196 名　出品数　235（絵本原画・童画　56 手づくり絵本 179）
優秀賞　浅川靖典　アリマジュンコ

第 26 回展
会場　東京都美術館　会期　2000 年 9 月 19 日～ 10 月 3 日
絵本出品者　211 名　出品数　240（絵本原画・童画　52 手づくり絵本　188）
優秀賞　ヒノクチミワ　後藤玲子

企画展
・「絵本えばなし」日本の絵本、世界の絵本展示。
東京展は他の団体展と異って 25 年前から絵本の部屋（コーナー）があります。
絵本も美術の一つのジャンルとして手づくり絵本や原画・童画の発表の場をつくり大切に育て上げて来ました。
絵本は急激に脚光を浴びるようになり表現で造形の面でも注目されるようになりました。
絵本は、もともと書物の中のさしえから派生したと考えられます。
石版・木口木版・銅版と新しい複製手段を生み、印刷技術が発展し書物の芸術性を高め、視覚表現の探求をすることになりました。
平安時代の「源氏物語絵巻」、鎌倉時代の「鳥獣戯画」、室町時代の「お伽草子絵巻」を経て絵本が生まれました。
絵本は、子どものものと思われがちですが、今や幼児、若者、大人、老人のものになりました。
26 回展に「絵本えばなし」を企画しました。

企画展・小松崎茂の世界

第 26 回展　会場風景

第 26 回展　会場風景

第 27 回展

会場　東京都美術館
会期　2001 年 9 月 19 日～ 10 月 3 日
絵本出品者　209 名　出品数　226
（絵本原画・童画 51 手づくり絵本 175）
優秀賞　はせがわかこ　ニコルス和美　古川晶子
顕彰故展・富永秀夫「メルヘンの世界」
童画家　絵本作家　日本児童出版美術家連盟
永い間、絵本の部屋に協力し、育てて下さいました。
2000 年 11 月急逝。

第 27 回展　冨永秀夫　顕彰故展　会場風景

第 28 回展

会場　東京都美術館　会期　2002 年 9 月 19 日～ 10 月 3 日
絵本出品者　232 名　出品数　258（絵本原画・童画　50 手づくり絵本　208）
東京展賞　古川晶子
優秀賞　三村久美子　鈴木雅子　桂　芳

第 29 回展

会場　東京都美術館　会期　2003 年 9 月 18 日～ 10 月 3 日
絵本出品者　234 名　出品数　253（絵本原画・童画 41 手づくり絵本　212）
優秀賞　ママダミネコ　南純子　山本佳奈枝
顕彰故展・深尾庄介
1987 年（第 13 回展）から東京展の運営委員長に選出され 2001 年（第 27 回展）逝去
東京展の発展のため、努力して下さった。

第 30 回展

会場　東京都美術館　会期　2004 年 9 月 18 日～ 10 月 3 日
絵本出品者　226 名　出品数　246（絵本原画・童画 33　手作り絵本 213）
優秀賞　松永ゆかり　ツキノワ　武井淑子

◎第 2 回展から第 30 回展まで武藤順子記録　　第 31 回展より第 49 回展まで加賀美裕子記録

第 31 回展
会場　東京都美術館　会期　2005 年 9 月 18 日～ 10 月 3 日
絵本出品者 234 名　グループ 2　出品数 265 点
優秀賞　武藤順子（絵画）　竹佐知子　冨田恵子

第 32 回展
会場　東京都美術館　会期　2006 年 9 月 18 日～ 10 月 3 日
絵本出品者 212 名　グループ 2　出品数 252 点
優秀賞　いとざくらゆかり　小玉裕子　染谷照代

第 33 回展
会場　東京都美術館　会期　2007 年 9 月 19 日～ 10 月 3 日
絵本出品者 215 名　グループ 3　出品数 239 点
優秀賞　青柳由美子　坂本佳与子　立石麻紀子

第 34 回展
会場　東京都美術館　会期　2008 年 9 月 18 日～ 10 月 3 日
絵本出品者 210 名　グループ 3　出品数 245 点
優秀賞　堺文子　儘田能光

第 35 回展
会場　東京都美術館　会期　2009 年 9 月 18 日～ 10 月 3 日
絵本出品者 214 名　グループ 3　出品数 235 点
優秀賞　中川淳　渡辺泉

第 36 回展
会場　ギャラリーくぼた別館　会期　2010 年 7 月 6 日～ 7 月 17 日
絵本出品者 195 名　グループ 4　出品数 196 点
優秀賞　林恭子　りくのこういち
奨励賞　たかのまさこ　山本さとこ

第 37 回展
会場　ギャラリーくぼた別館　会期　2011 年 7 月 19 日～ 7 月 30 日
絵本出品者 219 名　グループ 2　出品数 222 点
優秀賞　ベップヒロミ　星夏樹
奨励賞　えのもとしげこ　篠原誠司

第 38 回展
会場　東京都美術館　会期　2012 年 9 月 9 日～ 9 月 16 日
絵本出品者 218 名　グループ 3　出品数 232 点

グルグルハウス賞　武藤順子
優秀賞　しみずのりえ
奨励賞　キャッシー・リン
企画　油野誠一　絵本と原画

第 39 回展
会場　東京都美術館　会期　2013 年 9 月 9 日～ 16 日
絵本出品者　219 名　出品数　234 点（絵本原画・童画 36 点　手作り絵本 198 点）
優秀賞　新田一良
奨励賞　石田比奈子　清川浩美

第 40 回展
会場　東京都美術館　会期　2014 年 9 月 9 日～ 15 日
絵本出品者　214 名　出品数　238 点（絵本原画・童画 29 点　手作り絵本 209 点）
優秀賞　大塚美津子
奨励賞　池田美穂

第 41 回展
会場　東京都美術館　会期　2015 年 9 月 9 日～ 9 月 16 日
絵本出品者　225 名　グループ 3　出品数 232 点
東京展賞　ママダミネコ
優秀賞　佐藤環
奨励賞　毛利みき　領家手づくり絵本の会

第 42 回展
会場　東京都美術館　会期　2016 年 10 月 7 日～ 14 日
絵本出品者　169 名　出品数　244 点（絵本原画・童画 34 点　手作り絵本 210 点）
東京展賞　清水のりえ
優秀賞　毛利みき
奨励賞　清水けいこ

第 43 回展
会場　東京都美術館　会期　2017 年 10 月 7 日～ 14 日
絵本出品者　215 名　出品数　239 点（絵本原画・童画 32 点　手作り絵本 207 点）
優秀賞　関光行　渡辺郁子
奨励賞　ひろたむつみ

第 44 回展
会場　東京都美術館　会期　2018 年 10 月 7 日～ 14 日
絵本出品者　225 名　出品数　239 点（絵本原画・童画 33 点　手作り絵本 206 点）
東京展賞　大塚美津子
優秀賞　キャッシー・リン

奨励賞　いとうかずみ　古川優子

第 45 回展

会場　東京都美術館　会期　2019 年 10 月 8 日～ 10 月 14 日
絵本出品者　223 名　出品数　239 点（絵本原画・童画 32 点　手作り絵本 207 点）
東京展賞　たけだみつひろ
優秀賞　大橋彰
奨励賞　アシャ・みちこ　近藤紀子

第 46 回展

会場　WEB 内
会期　～ 2020 年 12 月 31 日
～新型コロナ蔓延のため、東京都美術館は閉館となり、替わりに WEB 上で東京展が開催されました。50 名が参加し、55 点が出品されました。

第 47 回展

会場　東京都美術館　会期　2021 年 10 月 7 日～ 14 日
絵本出品者　170 名　出品数　184 点（絵本原画・童画 38 点　手作り絵本 146 点）
優秀賞　鈴木芳子　いわべさゆり
奨励賞　かんまききよみ　神山伸一郎　武内祐樹

第 48 回展

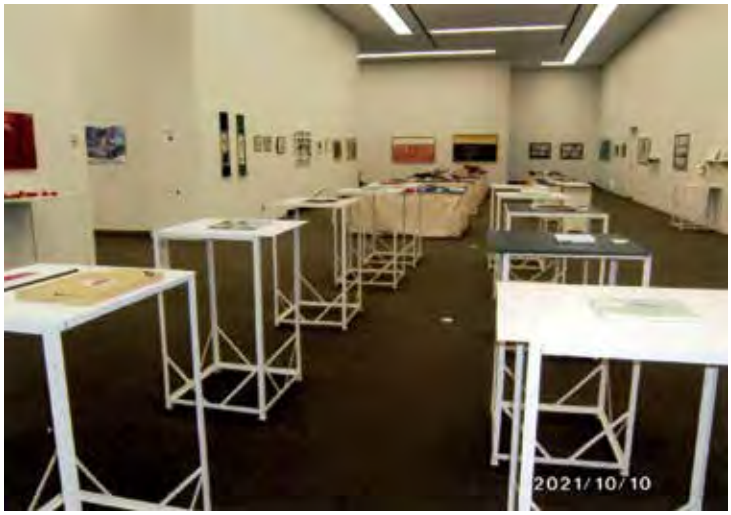
会場　東京都美術館　会期　2022 年 10 月 7 日～ 14 日
絵本出品者　156 名　　出品数　242 点（絵本原画・童画 39 点　手作り絵本 203 点）
東京展賞　いしみずズコ
優秀賞　清川浩美　長部トオル　大坪 透
奨励賞　かもしたじゅん　中島呼里　小作恵子　石田ひろみ　早崎由起

第 49 回展

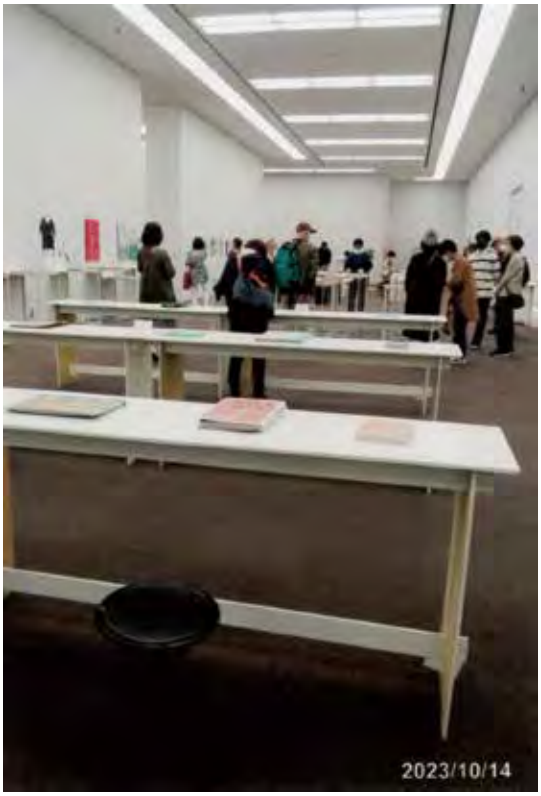
会場　東京都美術館　　会期　2023 年 10 月 7 日～ 14 日
絵本出品者　173 名　出品数　198 点（絵本原画・童画 38 点　手作り絵本 160 点）
東京展賞　領家絵本の会
優秀賞　かもしたじゅん　高林ひろみ　ひろたむつみ
奨励賞　ハンダタカコ　Hiroe　やまはたマリー　わたなべ真砂　あべとよこ　としこ・こうむらてつ
　　岡野和江

絵本の部屋

30 回展までは、武藤順子先生を中心に、会員やサークルに属する出品者が、「絵本の部屋」をまとめていました。31 回展以降は、絵本研究会の会員（含武藤順子先生）が、受け付け、図録、会計、陳列、搬入出等を担当しています。部屋の特別企画はせず、研究会の共同作品コーナーや、展賞受賞者コーナーを設けています。陳列方法については、毎年工夫をこらし、出品作品が美しく並び、読んでもらいやすくしています。グルグルハウス館長で出品者の今井伸治氏、会員の土屋侑美さんの手作りの陳列台、棚が効果があります。都美術館の工芸台、彫塑台には数に限りがありますが、必要な台を適宜使用しています。



東京都美術館備品の展示台



手づくりの展示台

絵本研究会について

絵本研究会は、1993 年発足しました。画家で絵本作家の油野誠一先生、元運営委員長の薄井正彦先生、絵画・立体、絵本部門出品者の丸山あつし氏が、手作り絵本の質の向上を図る目的で、希望者を指導して下さいました。　薄井先生は、読書家で、本のコレクターでもありました。油野先生は、絵本の芸術的可能性を予見されておられ、厳しく指導して下さいました。まさに、愛の鞭でした。先生は、各人の長所を見つけ、伸ばすよう親身に考えて下さいました。

活動

８年間の油野先生のご指導後は、元絵本学会会長で文教大学名誉教授の中川素子先生の講義、そして自主研修を行っています。

会場

薄井先生の工学院大学の部屋、目白の謙堂文庫、代々木のオリンピック記念青少年総合センター、2011 年以降は、中央区区民センターを会場にしています。

美術館見学

浦和美術館、板橋美術館、練馬美術館、岡谷のイルフ童画館

合宿

安曇野の「森のお家」、柏崎の「グルグルハウス」

展覧会

「13 人の机から展」ギャラリー絵夢、紀ノ国屋画廊、
Gallery5610 「絵本と原画展」（研究会会員と絵本の部屋出品者）
グルグルハウス、大垣市スイトピア、O 美術館、ドナルドキーンセンター柏崎等

ワークショップ

「侑美式手作り絵本」（絵本学会）
地元の「小学生対象」（グルグルハウス）、「親子の絵本作り」大垣市スイトピア等。

油野誠一先生

グルグルハウス会場風景 2018 年

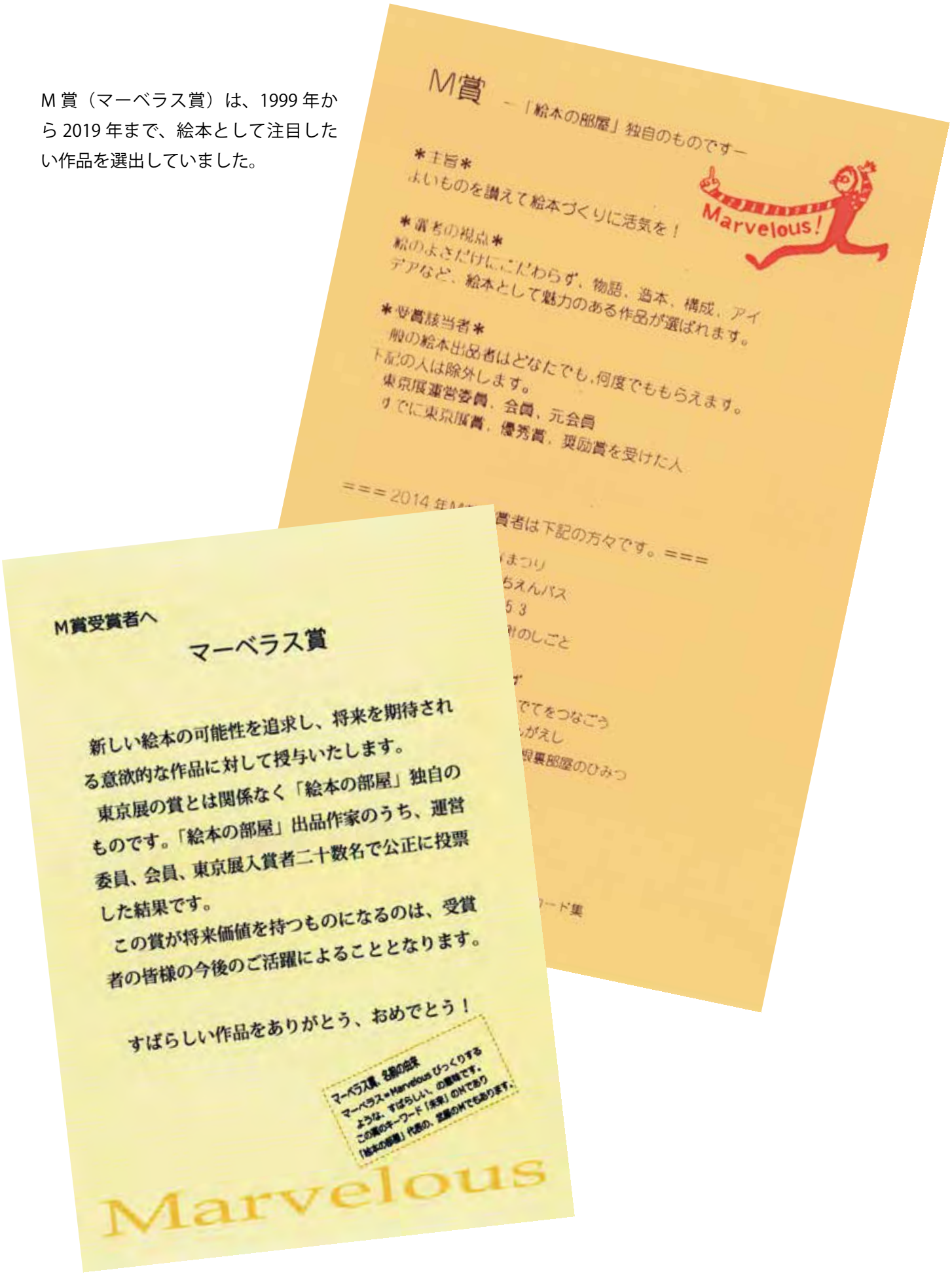
ググルグルハウスでのワークショップ　2016 年

大垣市スイトピアでのワークショップ

「絵本研究会」は、油野先生の真摯な姿勢と教えを守り、絵本の可能性を追求し、絵本の部屋が更に良い発表の場となるよう努めています。

大垣市スイトピア展会場風景

M 賞（マーベラス賞）は、1999 年から 2019 年まで、絵本として注目したい作品を選出していました。



M賞 ー「絵本の部屋」独自のものですー

＊主旨＊
よいものを讃えて絵本づくりに活気を！

＊選考の視点＊
絵のよさだけにこだわらず、物語、造本、構成、アイデアなど、絵本として魅力のある作品が選ばれます。

＊受賞該当者＊
一般の絵本出品者はどなたでも、何度でももらえます。
下記の人は除外します。
東京展運営委員、会員、元会員
すでに東京展賞、優秀賞、奨励賞を受けた人

Marvelous!

===2014 年M賞受賞者は下記の方々です。===
まつり
ちえんバス
5 3
のしごと
でてをつなごう
がえし
銀裏部屋のひみつ
ード集

M賞受賞者へ

マーベラス賞

新しい絵本の可能性を追求し、将来を期待される意欲的な作品に対して授与いたします。
東京展の賞とは関係なく「絵本の部屋」独自のものです。「絵本の部屋」出品作家のうち、運営委員、会員、東京展入賞者二十数名で公正に投票した結果です。
この賞が将来価値を持つものになるのは、受賞者の皆様の今後のご活躍によることとなります。

すばらしい作品をありがとう、おめでとう！

マーベラス賞、名前の由来
マーベラス＝Marvelous びっくりするような、すばらしい、の意味です。
この賞のキーワード「未来」のMであり
「絵本の部屋」代表の、宮澤のMでもあります。

Marvelous

東京展の最終日、「絵本の部屋」でM賞の表彰式を行っていました。1999年に始めたM賞は、全作品がM賞の主旨に該当するようになった2019年に終了しました。

2006年本展会場風景　左から加賀美裕子氏、瀬名恵子氏、武藤順子氏

紙芝居から絵本へ

油野誠一先生の長女

『１２３４５　あひるの散歩』表紙

戦後すぐ、父は鶴見の山の上に小さな白い家を建てた。家の半分は父のアトリエで、毎週土曜日は近所の子どもたちのお絵描き教室になった。手製の長テーブルにみかん箱の椅子。父は子どもたちの間を回りながら、「空は何色でもいいヨ」「きれいなリンゴだね」などと、声をかけ、おかしなことを言っては笑わせた。写生用の静物は形だけ置いてあったが、子どもたちに自由に描かせていた。

クリスマスは年一回の最大イベントだった。真っ赤に燃えたストーブの脇で、母は父の描いた紙芝居を声を張り上げて読んだ。『セロ弾きのゴーシュ』『よだかの星』『なめとこ山の熊』『オツベルと象』など、宮沢賢治原作の作品がよく読まれ、子どもたちは目を輝かせて、食い入るように見入っていた。町には紙芝居屋が回ってきたが、それとはまったく別の新鮮な色鮮やかな紙芝居だった。

父は宮沢賢治が好きで、『風の又三郎』『どんぐりと山猫』などを、私たち姉妹によく読み聞かせてくれた。読みながらおかしなことを言ったり、話を勝手に創って横道にそれることもあった。

また、母が留守のとき、父はアトリエに私たち姉妹を入れてくれた。そして細長い紙を渡して、何でも好きなものを描くように言った。父の喫っていたピースの缶の内側に巻かれていた紙に姉妹は各々独自のストーリーと絵を描いた。父はそれを見て吹き出したり、ほめてくれたり。懐かしく楽しい時間だった。

この頃、日本橋丸善や銀座教文館などには外国の絵本が沢山並べられ、岩波書店からはその翻訳絵本が出て、児童書の棚は急に華やかになった。父はそれらを購入して、家に来る編集者たちに「どうだい、きれいだろう」と見せていた。この頃から父は絵本の世界に魅かれていたようだ。

当時、児童向けの世界文学全集が次々と出版され、父にもその挿絵の依頼が来た。見たこともない外国の景色や風俗、服装や室内の様子などを調べるため、古本屋で求めた『ナショナル・ジオグラフィック』『スクリーン』『映画の友』などの雑誌がアトリエの隅に山積みになっていた。そこには私たちが見たこともない驚くような世界が広がっていた。

『くまさぶろう』表紙

父の年譜によると、この頃から翻訳ものだけでなく日本の児童作家たちの挿絵を描き始めている。

あるとき、児童文学の懸賞募集があり、父も創作小説を応募した。残念ながら入選はしなかったが、父はいずれ自分も本を出したいという思いがあったに違いない。『自転車小僧』というその作品はなかなか面白かったと記憶している。

1970 年代、戦後 20 年余を経て、父は創作絵本を出すことが出来た。『おんどりのねがい』『大きなニレノキ』をはじめとして、その後次々と絵本を出版した。

父からは、どんな絵本がいいのか、聞いたことは

なかったが、世評の高い作品であっても、「詰まらん」と、切り捨てることがあった。父の基準がどこにあったのか､はっきりとはわからないが､出版された作品を見ると､必ず「クスリ！」と笑いたくなるようなエピソードや場面がある。空を飛ぶ主人公の下に広がる町はご近所の商店街で、看板に店の名前が書いてあったり・・・。

晩年、大人向けのテーマで絵本を描いていたが、遺品の中に数冊の『夢日記』と、大きな紙箱に入ったいくつかの絵本の下絵と思われる作品が見つかった。中には彩色して本の体裁にしたものもあり、まだまだ貪欲に描きたかったのかと、その情熱に心打たれた。

４つの絵本サークル

台湾そして日本全国から出品者は、コロナ以前は、約 200 人でしたが、2023 年は、140 人弱でした。内訳は、4 分の 3 が継続者、4 分の 1 が初出品者です。絵本作りサークルに属している人も多く、共同制作作品を出品するサークルもあります。

4 つのサークルの活動を紹介します。

①国分寺絵本の会
② FUZI 絵本クラブ
③浦和領家手づくり絵本の会
④練馬区立大泉図書館ボランティアサークルひよこ

【国分寺絵本の会について】

染谷照代

私たちの絵本の会は　毎月１回　公民館の１室を借り　楽しく絵本作りをしている。東京展絵本の部屋の開設に尽力された武藤順子先生が始められた手作り絵本の会で　メンバーは少しずつ入れ替わっているがもう半世紀近く続いている。

現在　在籍するメンバーも　職業や年齢も　想うことも　描きたいことも　それぞれ違うが　自分の想いを絵本にしたいという気持ちは皆同じ。素敵な絵本を作りたいと　東京展絵本の部屋への出品をひとつも目標にして切磋琢磨している。

例会では　それぞれが自分が作ろうと思う作品の原画やラフを持ち寄り　作品に対する自分の想いを伝え他のメンバーの感想を聞く。居合わせたメンバーがテーブルに広げられた原画やラフを見て　絵の美しさに感心したり　文の面白さに微笑んだり　この絵が好きとか　私ならこうするとか　感想を呟く。そして　作者が迷っていることや困っていることがあれば　何か良い知恵は無いかと皆で考える。そこで答えが出るわけではないが　メンバーの感想やアドバイスを参考に　何より自分の感性を大切に作品を見直す。これを繰り返すうちに納得のいくものが出来上がる。作者も周りのメンバーもこの進化の過程が楽しく　作者が満足の出来上がりとなればなお嬉しい。

絵本をつくるには内容にもよるが８～１６枚の原画と添える文がいる。文が全く無いものもある。原画は水彩や油彩　インクやサインペン　クレヨンや色鉛筆もあり。最近はパソコンやタブレットも使われる。版画コラージュ　切り絵　仕掛けと何でもありだ。自分の好きな表現方法を選べば良いし　テーブルの上で描ける

小さい絵だが　枚数が多いので　それなりに時間はかかる。
　絵本の本文ができたら　製本する。プロに依頼するという手もあるが　私たちは自分で製本する。各ページを貼り合わせ　見返しをつける。表紙を作り　本文を挟んで糊付けし重石をして乾くのを待つ。細かい作業だが　作品を手に取ってもらうために　出来るだけ美しく仕上げたい。糊が乾いて　絵本を手に取り　最後のページまで無事に開くことができた時の達成感は　癖になる。
　絵本は机の上で作ることの出来る小さな作品だがそこには無限の世界を描ける。
　東京展絵本の部屋にはこれからも　美しく楽しい絵本がたくさん出品されることと思う。私たちの絵本の会もこの奥の深いアートを末長く楽しみたい。

【FUJI 絵本クラブを立ち上げて】

望月富美子（星ふみえ）

　2020 年、コロナ禍でしたが、私は FUJI 絵本クラブを立ち上げました。静岡で絵本作りをしていた繋がりからのクラブです。『絵本の部屋』の出品を目標にしていますが、出品表に FUJI 絵本クラブと書くだけで共同制作のないサークル、（東京 2 名と静岡 2 名、名古屋 1 名）のメンバーです。
　FUJI 絵本クラブは楽しいおしゃべり仲間です。私にはこのクラブのほか、東京展の友、静岡の児童文学ゼミの友達がいます。創作中の絵本について話をします。その関係が心地良いと思っています。絵本のコピーを郵送しあったり、作品の写真・ビデオをスマホの LINE 画像で簡単に見ることができます。スマホで自分の絵本の動画を作って LINE に送ってくれる人もいます。コロナ禍を通って遠距離交流にハンデはないと分かりました。『絵本の部屋』9 年目の日々をしみじみと思います。『絵本の部屋』は、なごやかな明るい広い空間、一日をそこで過ごしたいと思うアットホームな会場です。今年もみんなに会いに行きます。

【領家手づくり絵本の会】

　私たち絵本の会はしかけ絵本「見沼のたつまき」で第４９回東京展賞を受賞しました。
　折しも上野で東京展が華々しく誕生した頃、さいたま市（当時浦和市）領家の地では、若い主婦たちが初めて手づくり絵本に出会いました。公民館講座を経て自主グループが誕生。当初は個人作品が中心でしたが、結成から７年後息の合った会員同士が協力し合って合作絵本を作り始めます。
　さいたま市の見沼用水周辺には、昔、広大な沼があり、そこには多くの民話があります。その民話の中から厳選し「竜がいた沼」を制作しました。題材選定に始まり、資料収集、実地見学、文章づくり、絵の構図、木版の彫りと摺り、製本。全ての工程で素人だったので、民話の文章は「竜神の沼」の著者浦和太郎（宮田正治）先生、絵は絵本作家の吉本宗先生、版画は版画家の安本秀を先生などから御指導を受けました。出来上がった絵本は、近隣の図書館や郷土館へ寄贈したり、ギャラリーで展覧会を開き地域に広げていく取り組みをしました。その活動により「竜がいた沼」の記事が各新聞に掲載されました。取材を受けた際、会員の１人が「１０年続けます！」と宣言しました。みんなは驚きましたが、その後３０年も続いたのですから瓢箪から駒ですね。

合作絵本は３０年かけて２０作、さらにその中から立体しかけ絵本を５作制作しました。立体しかけ絵本に挑戦したのは、富山県の国民文化祭がきっかけでした。立体に向いている素材の紙探し、場面ごとにどんなしかけが効果的かなど、試行錯誤の作業を経て１作に２年ほどかけて完成させました。東京展賞を受賞した「見沼のたつまき」は、民話のよさを最大限表現するよう大掛かりなしかけに挑戦した５作目です。

私たちの絵本は、小学校の社会科の教材として、または朗読や影絵、紙芝居、音楽劇などへと広がっていきました。小学校で読み聞かせをしていて何より嬉しいことは、子どもたちが輝く瞳で見入ってくれることです。さいたま市の中央図書館と桜図書館では、全２０作品の動画がネット配信されています。

これまで携わった３０名余の仲間の力をもらって、創立会員３名とともに１１名で活動しています。会員のだれかが何かを提案すると、他のだれかが「それ面白いね。やってみよう」と乗ってくる。いつも前向きで新鮮な会です。「１００年続けよう！」が会の目標です。

（文責　長井）

『見沼のたつまき』７才の竜神祭

練馬区立大泉図書館ボランティアサークル　ひよこ

大泉区立図書館の布絵本ボランティアサークルひよこは、区の講習会受講後誕生し、今年で 33 年になります。大泉図書館は、絵本作家わかやまけんさんが、「大泉に図書館を」の住民運動の代表であったので、特に絵本コーナーが充実しています。若山憲さんは、第 7 回「東京展」に出品されました。

布絵本は、1975 年アメリカの主婦による布絵本「Busy Book」が第 1 回「障害を持つ子どもと本の会」で紹介されたのをきっかけに、日本でも作られるようになりました。柔らかく軽い布絵本は、障害の有無にかかわらず楽しんでもらえることから「バリアフリー絵本」とも呼ばれています。

「ひよこ」は現在 20 人の会員。毎月第 1、第 3 水曜日、9:00 － 13:00、制作と修理をしています。倉庫に、ミシン、アイロンなど必要な道具を収納しています。年間、3 種の絵本を各 2 冊ずつ作り、

布絵本の会　創作風景

図書館に納め、蔵書数は 150 冊です。幼い人から一般の方までに貸し出される他、障害者施設、老人ホーム、ブックスタートなどで利用されています。

地域の人の喜ぶ顔を思い浮かべながら、針を運び、和やかに話し合う「ひよこの集い」は、楽しさいっぱいです。

ひよこには、個人で自分のためのオリジナル絵本を作るメンバーもいて、「東京展」の他、絵本コンクールに出品しています。

「東京展」の「絵本の部屋」に占める布絵本の数は、多くないのですが、人気のコーナーとなっています。

加賀美

練馬の大泉図書館

まとめ

「絵本の部屋」は、不思議な空間です。「東京展」の他の部門の部屋とは、異なった空気が流れています。また、本屋さん、図書館の絵本コーナーには無い雰囲気を醸し出しています。

「絵本の部屋」で、来場者は 1 時間から 3 時間かけて、丁寧に頁を繰ります。注意を引く本は人それぞれ違うことが、表情からうかがえます。軽くうなずいたり、微笑んだり、涙ぐんだり、手触りを楽しんだり、製本方法をチェックしたり。

会期中、出品者本人も、たびたび部屋を訪れ、客観的に自作を見ます。次の作品のイメージも思い浮かべることもできるようです。出品者同志、お互いの本を紹介し合い、感想を交換します。出品者の友人、親戚が、毎年のように来場されます。お気に入りの出品者の絵本目当てに来られる方も少なくありません。幼い人は、親や絵本を画いた人に読み聞かせてもらいます。来場者の中には、自作の絵本を次年度に出品したいと問い合わせて来る人も居ます。

多くの方々に支えられて来た「絵本の部屋」は、手作り絵本ブームのスタートから今日に至る、49 年の手作り絵本の歴史を刻んで来ました。絵本作家、おの ちよさん、瀬名 恵子さん、岩崎 京子さん、杉田 豊さんらが、長年にわたり、「絵本の部屋」に来て、エールを送り続けて下さっています。これからも、アートとしての手作り絵本を追求する部屋であり続けると信じます。

加賀美裕子